

頁			項目	伝えたいメッセージ(ねらい)	記載内容	
1	表紙	巻頭	表紙	手にとってもらいやすいインパクトと、優しさ	タイトルとイラスト	
2	-	-	発行目的、意義	地域包括ケアや在宅療養という新しい価値軸を提示	発行するに至った経緯やねらい、届けたい区民像、等の大枠を記載する。	
3	-	-	目次	前半総論、後半各論、といった構成がわかるように	リーフレットの対象者(「現在病気である人向け」・「現在健康な人向け」)が読むべき箇所をアイコン等を使用して表示する(読み手の立場から、どのページを読むべきなのかを明確にするため。)	
4	見開き	総論	導入部、つかみ(課題)	読み手の漠然とした不安や懸念に寄り添い、「あるある!」「私の不安はこういうことだったのか!」といった形で、読み手の関心を掴むことを重視。	典型的な「困った」体験談等について記載(脳卒中から退院、転倒からの骨折寝たきり、がん末期、認知症、老々介護、独居等)。	
5			課題解決の仕組み	病院ではなく、自宅でも、変わらぬクオリティのサービスで支えられ、暮らしていくことができる、という安心感を与えると共に、複雑なサービス体系がひと目で分かるようにレイアウトに注意。	イラストを用いて在宅療養を支える多職種の説明を行う。(ケアマネジメントと訪問・通所・施設といった大枠のサービス構造が理解できるようなレイアウトに。) 「在宅療養」というワードの練馬区なりの定義も行う。	
6	見開き				ここは、データ等も使いながら、聞きなれない地域包括ケアシステムというワードを丁寧に理解してもらう	地域包括ケアシステムの説明 ・社会背景(人口動態、病床の減少、認知症、在宅療養を希望する国民の増加等) ・提供体制図(介護から医療・看取りまで連続したケアを提供する旨を記載)
7						見開き
8	見開き		ケース別フローチャート(体験談付き)	<p>●高齢期のADL低下曲線3パターンに沿って。 ・慢性疾患型(増悪と回復を繰り返しながら低下) ・認知症型(10年かけてゆっくりと低下) ・がん型(最後の数週間で一気に低下)</p> <p>●また、介護力という視点から、一つ。 最初は老々介護、おじいさんの死去後、独居老人となるお婆さん、という典型パターンで。</p> <p>これからの長い人生、大きくこういったパターンになる可能性がある、ということを知ってもらう。 (中長期のイメージができることで、各知識の受容度も高まる)</p>	【慢性疾患型】 脳血管疾患ケース 大腿骨骨折からの寝たきりのケース(介護がいつまで続くのか、わからない)	
10					見開き	ケース別フローチャート(体験談付き)
11	見開き		ここでも、読み手の不安に寄り添う内容に。	【がん型】 末期がん。(予後予測、介護の終わりが予測しやすい)		
12				見開き	ケース別フローチャート(体験談付き)	ここでも、読み手の不安に寄り添う内容に。
13	見開き		ケース別フローチャート(体験談付き)			
14				見開き	ケース別フローチャート(体験談付き)	ここでも、読み手の不安に寄り添う内容に。
15	見開き	ケース別フローチャート(体験談付き)	ここでも、読み手の不安に寄り添う内容に。			
16				見開き	ケース別フローチャート(体験談付き)	ここでも、読み手の不安に寄り添う内容に。
17	見開き	ケース別フローチャート(体験談付き)	ここでも、読み手の不安に寄り添う内容に。			
18				見開き	ケース別フローチャート(体験談付き)	ここでも、読み手の不安に寄り添う内容に。
19	見開き	ケース別フローチャート(体験談付き)	ここでも、読み手の不安に寄り添う内容に。			

頁			項目	伝えたいメッセージ(ねらい)	記載内容
20	見開き	各論	在宅医療	何よりも気になるのは医療。自宅にしながら入院と同等の療養が可能、というメッセージを打ち出す	①在宅医療とは？、②訪問診療と往診の違いについて、③在宅療養支援診療所とは？、④在宅医療(療養)のコスト面について、⑤かかりつけ医を持とう！というメッセージ、⑥その他
21					
22	見開き		後方支援病院の体制	区民の病院信仰は根強いので、キチンと病院がバックアップに入っていることを明記し、安心感を与える	在宅療養を支える病院の体制について(後方支援病床等)
23					
24	見開き		医科歯科連携	自分の口と歯で食べ続ける、ことが何を意味するのか、伝えられる内容に	口腔ケアの重要性と、訪問歯科診療について
25					
26	見開き		在宅医—薬局連携	薬局も自宅に来てくれる！ということを伝える	服薬コンプライアンスの重要性および訪問服薬指導について
27					
28	見開き		地域包括支援センター	日常生活圏レベルの最初の総合相談窓口として。要支援→要介護という構造もここで整理。	地域包括支援センターの説明について(包括3職種と機能) 予防ケアマネジメント 地図(日常生活圏域)と、事業所リスト。
29					
30	見開き	介護保険サービス	ケアプラン、福祉用具、訪問、通所、ショート、施設、地域密着といった介護保険サービスの基本体系がわかるように。(小規模多機能等がわかりやすいように)	介護保険サービスの全体像について(イラストを用いた記載。)	
31					
32	見開き	介護予防・生活支援サービス	自助(自費サービス)・共助(介護保険)・公助(生保等)だけでなく、互助(地域コミュニティや趣味サークル、NPO等)の重要性を指摘。 →鉢植えの図でいう、土壌の部分	①出来る限り元気であるための介護予防、ADL維持に関する記載。 ②地域コミュニティの重要性について。 ③予防や生活支援に関わる区の支援メニューリスト	
33					
34	見開き	高齢者の住まい	自宅だけではない、様々な住まいの可能性。特に、低所得層に寄り添った内容に。 →鉢植えの図でいう、ポット(鉢)の部分	①施設の種類について、②高齢者向け住宅の種類について、③コスト面について。	
35					
36	見開き	自宅看取りの体験談	体験記3~4。疾患別に。	がん末期の看取り体験記	
37				認知症の看取り体験記、老衰の看取り体験記	
38	-	ターミナル期に家族が不安になる点をカバー	独居の看取り体験記	急変時の相談先等のまとめ	
39				看取り時の患者・家族の心構えについて(→鉢植えの図でいう、トレーの部分)	
39	-	最期のメッセージ	誰もが尊厳を持ち、自己決定できる、社会の実現を、行政と専門職種と、住民みんなで作上げていく、等	あらためて、総まとめ	
40	裏表紙	巻末	窓口一覧		各種窓口一覧(高齢者総合、介護サービス、認知症)